

「子宮頸がん」から あなたを守るHPVワクチン 無料接種期限がせまっています

無料接種期間を過ぎると接種費用は全額自己負担(約10万円)になります

※9価HPVワクチンの場合



健康で
ありますように

ワクチンの
正しい情報を知りたい

ワクチンでがんを
予防できますように

無料接種で
安心を手に入りたい

公費で無料接種できます

接種機会を逃した方の無料接種
キャッチアップ接種
無料接種は2025年3月末まで

1回目は遅くとも2024年9月までに!

キャッチアップ接種対象者 1997年度～2007年度生まれの女子

「子宮頸がん」を予防するワクチン
HPVワクチン定期接種

定期無料接種は遅くとも高1の9月までに!

定期無料接種対象者 小学校6年生～高校1年生相当の女子

HPVワクチンとは

HPVワクチンとは子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンは予防効果が高く定期接種年代(小6～高1)の接種において約90%の予防効果、キャッチアップ接種年代の接種においても約50%の予防効果が報告されています。

子宮頸がんの
予防について
もっと詳しく
知りたい方は
こちら→



子宮頸がんはワクチンで予防することができます

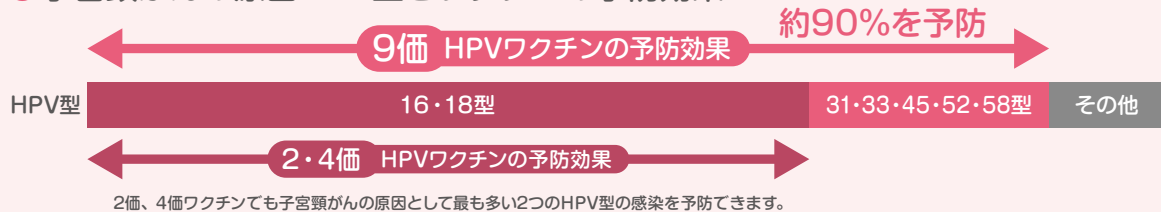
● 9価ワクチンの接種で子宮頸がんの9割以上を予防できます

子宮頸がんは、HPVワクチンの接種により予防することができます。
他のワクチンと同じように安全性と有効性が認められています。

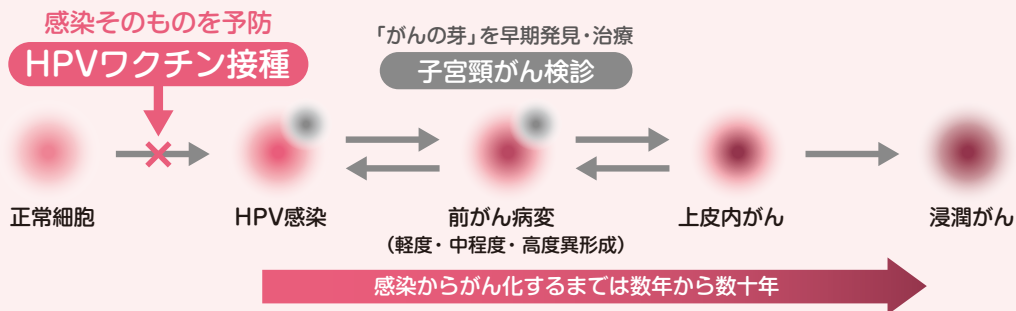
2023年度から開始された「9価HPVワクチン」はすでに世界中の国と地域で承認されており、子宮頸がんの原因となるHPV型の9割近くの感染を予防できます。



● 子宮頸がんの原因HPV型とワクチンの予防効果



● 子宮頸がんの進行とHPVワクチン接種の予防効果



● HPVワクチン接種後のリスクについて

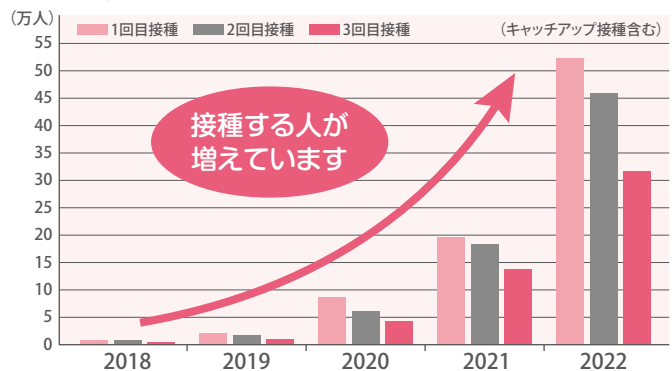
HPVワクチンの接種にも他のワクチンと同様に注射部位の痛み・腫れなどがみられることがあり、まれにアレルギー反応が起こる事があります。また、まれに広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状（機能的な身体症状）が報告されましたが、ワクチン接種との因果関係については証明されていません。副反応と思われる症状がみられる場合は、まずは接種医（かかりつけ医）にご相談ください。



万一副反応が起こった場合の
愛知県内の相談窓口や医療機関情報

● 日本でも年々、HPVワクチンを接種する人が増えています

● 近年のHPVワクチン定期接種被接種者数



第94回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第5回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）資料
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00061.html

男性へのHPVワクチン接種について

男性もHPVに感染します。中咽頭がんや肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因となります。

男性がHPVワクチンを接種することにより、これらの病気の予防効果が期待できます。

さらに男性がワクチン接種をすることで女性への感染を防ぐことができ、子宮頸がんの予防にもつながります。現在、男性へのHPVワクチン接種は4価HPVワクチンのみが承認されており、全額自己負担となります。（3回接種で約5万円）